

地域とともに 気山小一五〇年の歴史

現在の気山小学校は今から一五〇年前、一八七三年に開智小学校として開校した。一八七二年、明治政府から学制が公布された年であり、全国各地に学校が設置された。そのため多くの学校が今年、一五〇周年を迎える。開校当時の開智小は現在の気山公民館の位置にあった。今もグラウンドの跡を見ることが出来る。そして一九六八年に気山小へと改称された。

気山小一五〇周年記念イベントは地域住民が主体となつて行われ、小学校近隣地区に住む中正志さんを中心とした実行メンバー七人が企画を練ってきた。

今回の第一弾に続き、八月十四日には第二弾として「夏祭り」が開催される。場所は旧気山小跡地

の気山公民館。花火や屋台などのイベントだけでなく写真展示も予定されており、気山小の歴史を知ることができる。卒業生にとっては昔を思い出す良い機会になるのではないだろうか。

第三弾は十一月二十三日に行われる「気山小一五〇周年記念式典」だ。地域に関わる方々が参加し盛大に行う予定。式典後は、三兄弟バンド「一途」さんによるコンサートも行われる。二〇一五年



生徒、地域住民らで作上げた人文字

に一途さんと児童たちで制作した「気山小ヨイヨイ音頭」を踊り、一五〇周年を祝う。気山小の岡本佳久校長先生は「一五〇年が経ち当時の人は誰もいないが、今もこうして地域の交流ができていて嬉しがい」と一日を振り返った。また、地域との関係について「これほど盛大に一五〇周年を祝っている学校は少ないと思う。地域の方々の団結力があってこそ」と話した。

〇×クイズの様子

吹奏楽部の演奏後、豪華景品をかけた〇×クイズが開催された。「気山小校区の字は全部で七つである」「岡本校長先生は、気山小になってから23代目の校長先生である」など、分かるようで難しい問題が次々と出された。惜しくも間違えてしまった参加者には、調理部が作ったクッキーが配られた。



参加者にクッキーを渡す調理部

【母校を尋ねて 記者の感想】
自分の母校である気山小がもう一五〇周年というのは驚きです。地域と一体の気山小が今も感じられました。これからも続いていてほしいです。
(和多田明陽)
久しぶりに気山小へ行って懐かしい気分になりました。元氣あふれる小学生と、大勢の地域の人が集まって活気づいていて、参加した私もとても楽しめました。
(兼松琴美)

丁寧なおもてなし 先生方へ披露 茶道部



丁寧にお茶を入れる三年生

六月十二日に大会議室で茶道部によるお茶会が行われた。今回は先生方に向けたもので、校長先生をはじめ、約三十名が訪れた。先生方の注目を浴びながら、三年生がお



楽しむ方などそれぞれに非日常の時間を楽しんでいた。
部長の西村柚希さんは「初めて自分たちがお点を披露する場だったのでとても緊張しましたが、これまでしてきたことをしっかりと出し切れたので良かったです」と話した。
顧問の小林先生は、三年生のお点前について「緊張しながらも落ち着いてできていました」と評価した。三年生へのメッセージとして「お点前の練習を通して、手順だけでなくおもてなしの心を学んだと思います。これからの生活の中でも人への感謝の気持ちを大事にしてください」と話した。